

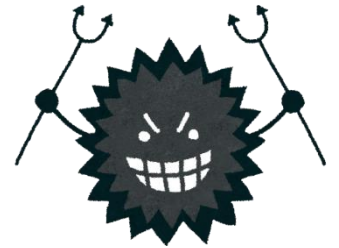
気管支炎について

咳が止まらない、よく痰がでる、発熱も…、これはまさに風邪の症状ですね。しかし、風邪薬を飲んでいるのに一向に改善しないので、受診したら、初めて風邪ではなく気管支炎だと判明したというケースがよくあります。では、気管支炎とは何か？



【気管支炎】

口と肺の途中に位置する、左右の気管支に起こる炎症です。慢性と急性に大きく分けられ、原因もそれぞれ異なります。いずれも激しい咳が続くのが特徴で、風邪のような発熱や倦怠感などがある場合もあります。



☆急性気管支炎の主な原因☆

インフルエンザウイルス、アデノウイルスなどのウイルスに感染して、上気道炎を引き起こして弱った気道に更にウイルスや細菌（インフルエンザ菌、連鎖球菌、肺炎球菌）などの二次感染が起こって発症します。

主にたんを調べ、黄色や緑色の場合は感染している可能性があるため、抗生物質、抗ウイルス薬などで多くは短期間で回復に向かいます。急性から慢性型への移行はまずありませんので十分な睡眠、栄養、休養を心がけることが重要です。

☆慢性気管支炎の主な原因☆

慢性気管支炎の主な原因として長期の喫煙、排気ガス、大気汚染などが考えられています。

慢性気管支炎の症状は、労作時の呼吸困難（息切れ）や慢性の咳、痰などがあります。

このような症状が、少なくとも1年のうち3カ月以上（おもに冬季にかけてが多い）咳と痰が持続し、それが2年以上続いて他の症状が見られなければ慢性気管支炎の可能性が高くなります。

☆急性気管支炎の主な症状☆

気管支炎の症状というと咳が一番に思いつきますね。風邪を引いた時なんかでも、喉の痛みやゴホゴホと咳が出たりしますが、非常に症状が似ています。気管支炎は最初に乾いた咳がおこり、しだいに湿った痰をともなった咳に変わります。咳は、空気の通り道にある異物を排除する体の防御反応で、通常は気管支炎の症状として起こります。

風邪を引いていないのに咳が出たり、いつまでも続いたりする場合は、重い病気の前兆の可能性もありますので、「たかが咳」と思わずに、早めに医師に相談し治療することが大切です。

咳が続いてご心配な方は、いつでもお気軽にご相談ください。



高齢者になると自分では気づかないことも多いです。家族や友達でも、おかしいなと思ったら検査を進めてみてくださいね。